

かしわ



新年、おめでとうございます。

校長 北村 耕一

新年、明けまして、おめでとうございます。平成29年も横須賀市立ろう学校をよろしく願いいたします。

かしわ12号で、私の考えた平成28年の漢字は「災」と「努」でした。昨年12月12日(月)に、毎年恒例となっている京都清水寺で書かれる漢字は「金」でした。

この漢字が選ばれたのは「平成28年は、リオ五輪の金メダルラッシュや前東京都知事の政治資金問題「政治と金」伊予選手の通算3000本安打達成など金字塔、PPAPの金色の衣装などが理由に挙がった」ことが理由だそうです。

さて、平成29年を迎え、最初にご紹介したいお話は、昨年の10月に読んだ雑誌の記事です。その記事の見出しは、「世界最先端！障害を価値に変える車椅子社長」というものでした。

ミラロという会社の垣内俊哉社長とジャーナリストの田原総一郎さんの対談形式の記事でしたが、視点を変えると、このように考えることができるのかと思う内容でした。

骨形成不全症という病気を抱えて生まれてきたため幼稚園から車椅子に乗られていたそうです。中学生の頃に自分は弱者であることを認識させられ、障がい者と健常者の間には壁があると思ったそうです。そして、その壁を壊したくて、自分の障がいを克服することを考え、自分が生きていくためには、知識や技術、経験が必要でそれらを身につけるために勉強したそうです。

垣内社長は大学に進学し、学費を得るためHP制作会社でアルバイトをしたそうです。そこで営業成績で一番をとったのですが、その時に会社の上司から「車椅子に乗っていることが営業の結果につながっているのだから、歩け

No. 13 平成29年1月10日 師走の紅葉

ないことに誇りを持って」と言われたそうです。

垣内社長はこの言葉により「バリアバリュー＝障がいには価値がある」という考え方を広めようと思ったそうです。

垣内社長によると、現在、日本のバリアフリー(＝和製英語だそうです)は世界的に見てもっとも進んでいるそうです。しかし、健常者が想像で設計するとバランスが悪くなるようです(田原氏談)。

垣内社長の会社でバリアフリーのコンサルティング(専門家の立場から相談にのったり指導したりすること)が行える社員の3割の方が障がいのあるスタッフだそうです。

垣内社長は「例えば、全盲のスタッフは、見えている私には気づかないことに気づくかもしれないし、耳の聞こえないスタッフも私にはわからないことを指摘してくれるかもしれない。そうやって様々なバックボーンを持ったスタッフが経験や感性を活かすことで、よりよいご提案ができる」と考えています。

学校においても、既に授業のエバーサレデザイン(＝和製英語だそうです)が言われて十年以上の歳月が経っています。垣内社長は「障害者に優しいは万人に優しい」と対談の中で述べています。健常者ではなく障がいをお持ちの方の言葉ですので、意味の重さが違うと感じました。

新しい年を迎え、子どもたちがこれからの共生社会で自立して生活していくうえで、「自分の価値」として自分の特性を受け入れる考えを育成しながら、子どもの自己肯定感を伸ばす学校教育が大切だと思います。

今年も昨年に引き続いて、本校の教育へのご理解とご協力・ご支援をお願いいたします。

小学部秋の遠足

「はまぎん子ども宇宙科学館」

教諭 宮井 孝典

宇宙科学館は小学部の遠足としては初めての場所でした。見たり触ったりできるものはどれも不思議なもの

で、子どもたちの興味はどんどん高まっていたように思います。



3階には、これまた興味深い遊具が揃っていて、子ども達はもたちは汗をかきながら夢中で遊んでいました。これからも遠足の候補地として取り入れていきたいと考えています。

今回は5・6年生に遠足実行委員会のような活動してもらいました。企画や運営といった活動に参加させたいと考え取り入れてみました。子どもたちも教師も十分な成果をあげたと言えるところまでは進めませんでした。これからの行事でも引き続き取り組み、子どもたちの力を育てていきたいと考えています。

弘済会コンサート

教諭 鴨 佐和子

12月2日(金)に、弘済会のコンサートがありました。

Bum! Bum! スマイル! さんがいらして、歌やギターやアフリカの太鼓などの楽器を聴かせてくれました。ホーカルの歌子さんの歌声がとてもすてきで、子どもたちはみんな口々に「きれい!」と言っていました。また、聴くだけでなく、いっしょに歌ったり、踊ったりする曲もあり、子どもたちはとても楽しそうでした。

特に、ヒーローマンが登場したときは、大歓声がおき、みんないっしょに川川で踊っていました。ギターやアフリカの太鼓を聴くときも耳をすませていました。普段聴けない音なのでよい経験になったと思います。

最後のアンコールでは、練習してきた「明日へ向かう」をいっしょに歌いました。歌子さんはさびの部分を手話でやってくれて、みんなうれしそうでした。

終わった後、太鼓などの楽器をさわらせてもらいました。たくさん触れ合いができて、とても良いコンサートでした。



幼稚部・小学部

おたのしみ会

教諭 梅津 綾子

「校長先生、サタさんをお願いします!」と、お楽しみ会で司会を担当するRくんは、お楽しみ会の事前学習で書いたサタコース宛の手紙を校長先生に届けました。校長先生はその手紙を学校のHRに載せてくださいました。サタは来てくれるでしょうか・・・?

12月16日(金)、幼稚部と小学部の子どもたちが心待ちにしていた『お楽しみ会』でした。幼稚部が中心となり、司会進行を務めました。たくさんの人に見守られ、少し緊張した様子の子もいましたが、とても楽しく良い経験になったと思います。

幼稚部・小学部・教師とそれぞれに趣向を凝らした出し物も発表しました。みんな歌やダンスなど、練習の成果を活かすことができました。

お楽しみの時間には、待ちに待ったサタとトカイが、手紙を見てプレゼントを持ってきてくれたので子どもたちは大喜び!!

そして、小学部からも手作りのプレゼントをもらったので、ありがたい気持ちを届けたいと幼稚部も、お礼に手作りのクリスマスカードを届けました。

普段同じ校舎の中にも、なかなか一緒に時間を過ごすことが難しい子どもたちですが、このような幼小連携をしていくことで人とのかかわりが増え、子どもたちの心の成長につながると感じました。行事を通して、子どもたちのために出来ることをこれからも考えていきたいと思っています。



